

新見公立大学紀要 第31巻
pp. 79-86, 2010

研究ノート

診療所実習前の講義における看護学生の学びと今後の課題

— 講義前後の比較 —

栗本 一美^{1)*}・八木 一江^{2)*}

在宅看護

(2010年11月17日受理)

医療法の改正により地域医療を取り巻く環境も大きく変化し、入院治療を少しでも短縮し、在宅医療へと流れが変わってきている。このような社会背景の中、診療所は地域住民にとって身近な存在であり、地域（生活の場）と医療を結ぶ接点でもある。

そこで、A短期大学では生活の場と医療を結ぶ診療所を地域看護学実習の一環として取り入れている。その診療所実習前に、診療所の基礎知識を学ぶことを目的に診療所医師による講義を実施している。

本研究は、その講義の前後の学生の学びを明らかにし、診療所実習での指導の在り方を検討することとした。その結果、講義を受けることで、診療所の役割や看護師の役割、地域包括医療について学ぶことが出来ていた。このことより、実習直前の講義に合わせ、地域看護学Ⅱの講義内容を見直し、学びの定着化への工夫と実習前の講義の学びが、診療所実習でさらに深められるように実習内容を工夫していく必要性が明らかとなった。（キーワード）診療所、看護師の役割、地域包括医療、講義前後、看護学生の学び

はじめに

疾病構造の変化、慢性疾患患者の増加、入院日数の短縮化にともない在宅療養者の増加など地域医療を取り巻く環境も大きく変化し、在宅医療へと流れが変わってきている。そして、24時間体制で往診や訪問看護を提供できる在宅医療の普及を目的に2006年から、在宅療養支援診療所の制度が設けられた。在宅療養支援診療所の基本的考えは、高齢者が出来るだけ住み慣れた家庭や地域で療養しながら生活が送れるように、また、身近な人に囲まれて在宅での最後を迎えることも選択できるようにすることである。このように、診療所は地域住民にとって身近な存在であり、地域（生活の場）と医療を結ぶ接点である。

看護基礎教育において2009年度から、新カリキュラムとして、在宅看護論は、「統合分野」に位置づけられ、新たに「在宅で提供する看護を理解し、基礎的な技術を身につけ、他職種と協働する中での看護の役割を理解する」「在宅での終末期看護に関する内容も含む」の2つが追加された。これらの意味するところは、在宅医療改革に伴い、在宅医療推進の必要性を医療界全体の中で認識し、施設完結型ではなく地域完結型の医療提供体制を確立した場合、こうした役割が看護師に求められるということである¹⁾。すなわち退院支援・退院調整など患者の在宅生活を視野に入れた看護の提供ができる看護師が求められていると言える。

A短期大学では地域看護学実習の2週間を保健・医療・福祉の3視点を重視し、対象への関わりと看護職の役割を理解することを目的に実習を展開している。そして、在宅療養者や地域住民の生活の場と医療を結ぶ診療所を医療の視点の一施設として位置づけ、診療所実習前には、診療所の基礎知識を学ぶことを目的に診療所医師による講義を実施し、実習に臨むようにしている。

そこで、本研究は診療所実習前に行う講義前と講義後の学生の学びを明らかにし、診療所実習での指導の在り方を検討することとした。

Ⅰ. 研究目的

診療所実習前に行う診療所についての講義前と講義後の学生の学びを明らかにし、診療所実習での指導の在り方を検討する。

Ⅱ. 研究方法

- 1) 調査対象：A短期大学（3年課程）の看護学科3年次生62名。
- 2) 調査期間：2010年4月5日
- 3) 調査・回収方法：看護学科3年次生62名に地域看護学実習ガイダンスで行われる診療所に

*連絡先：栗本一美 看護学科 新見公立大学 718-8585 新見市西方1263-2

1) 新見公立大学看護学部看護学科 2) 新見公立短期大学看護学科非常勤助手

関しての講義前後に、独自で作成した調査用紙を配布し、講義を受ける前と講義後に診療所についての学びを記述してもらった。同意が得られた者のみ調査用紙回答後、返却してもらった。

- 4) 調査内容：診療所の機能について・診療所での看護師の役割について・診療所の受診の有無・地域包括医療について
- 5) 分析方法：数的に表しているものは単純集計を行った。また、自由記述の内容については1内容1項目として内容をコード化し、意味内容の類似性に基づきカテゴリー、サブカテゴリー化した。数回の検討を繰り返し導き出したカテゴリーとサブカテゴリーについては、スーパーバイザーのアドバイスを受け、信頼性と妥当性の確保に努めた。

Ⅲ．倫理的配慮

対象者に研究の目的と方法、以下の3点について口頭と書面で説明した。同意が得られた対象者には、アンケートと同意書の記入と返却を依頼した。

- ①アンケートは、個人が特定されないように配慮し、データの取り扱いについては、研究以外には使用しないこと。
- ②研究への参加は自由意志であり、途中で拒否してもかまわないこと。
- ③実習や成績と本調査は無関係であり、調査への不参加による不利益は生じないこと。

Ⅳ．診療所についての講義と実習について

1) 診療所実習の位置づけ

地域看護学実習の施設であるB診療所は、地域包括医療について推進し実施している施設である。そこで、診療所実習の前段階として、看護3年次生の4月に地域看護学実習のガイダンス中に1コマ用いて診療所についての講義を受ける。診療所についての講義は、実際に行く診療所の医師と看護師から診療所の機能と役割や診療所の看護師の役割、地域包括医療についての内容である。学生は、この講義を踏まえ5月から11月の期間にある地域看護学実習の2週間のうち1日のみ診療所に出向き実習に臨む。

学生は、看護2年次生の後期に地域看護学Ⅱの講義の中で、在宅ケア提供施設の一つとして診療所の役割についても講義を受けている。

2) 診療所実習の目的・目標

1. 診療所の機能・役割が理解できる。
2. 通院患者を通して、地域住民の健康観、健康行動を理解できる。
3. 地域の特性を踏まえた健康教室が実施できる。

4. 在宅療養者と家族への往診・訪問看護の実際を理解し医療・看護活動を通して看護者の役割が理解できる。

Ⅴ．結果

看護学科3年次生64名にアンケート調査を依頼した結果、62名から回収することができた(回収率96.8%)。

対象者62名中、診療所への受診経験の有無については、「受診経験あり」が32名、「受診経験なし」が28名、「無回答」が2名であった。

1. 講義前の学生の学び

1) 診療所の機能について

講義前に学生が記入した学びを同じ意味内容で類似性に沿って分析した。その結果、診療所の機能については、72のコードから<軽度の診察・治療を要する場><健康診断の場><地域に密着した医療の場><病床数の理解><知識不足>の5つのサブカテゴリーと『診療所の役割』『病床数の理解』『知識不足』の3つのカテゴリーに分類することができた。カテゴリーとサブカテゴリーの内容については、表1に示す。以下の文中において、『 』をカテゴリー、< >をサブカテゴリー、「 」をコードとして表記する。

(1) 『診療所の役割』について

3つのサブカテゴリーが構成された。診療所の役割として「軽度の風邪や予防接種を行う」とし<軽度の診察、治療を要する場>、「健康診断を行う」とし<健康診断の場>、「地域の医療を支える」とし<地域に密着した医療の場>として理解していた。

(2) 『病床数の理解』について

1つのサブカテゴリーが構成され、「ベッド数19床以下の病院」「病院に比べて病床数が少ない」と理解し、<病床数の理解>があがった。

(3) 『知識不足』について

1つのサブカテゴリーが構成され、「知らない」としており、<知識不足>があがった。

2) 診療所の看護師の役割について

診療所での看護師の役割についても、同様に分析した結果、診療所での看護師の役割について79コードが抽出できた。79コードから<診療の補助><情報収集><対象者への教育・指導><療養上の世話><薬とカルテ管理><知識不足>の6つのサブカテゴリーと『医師の指示のもとでの医療補助』『知識不足』『看護師の専門性』の3つのカテゴリーに分類することができた(表3)。

(1) 『医師の指示のもとでの医療補助』について

1つのサブカテゴリーが構成された。「診療の補助」「医師が処方した薬や点滴をする」として<診療の補助>があがった。

(2) 『看護師の専門性』について

4つのサブカテゴリーが構成された。「療養上の世話」から<療養上の世話>、「顔見知りが多く、普段の健康状態の

表1 診療所について（講義前）

N=60人

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
診療所の役割 (43)	軽度の診察・治療を要する場 (27)	・患者の診察 ・軽度の風邪の診察や予防接種を行う
	健康診断の場 (7)	・健康診断を行う ・高齢者が自己の健康状態を診断してもらう所
	地域に密着した医療の場 (9)	・小さい町でのちょっとした病院 ・地域の医療を支える
知識不足 (18)	知識不足 (18)	・知らない ・イメージはあるがよく分からない
病床数の理解 (8)	病床数の理解 (8)	・ベッド数が19床以下の病院 ・病院に比べて病床数が少ない

表2 診療所について（講義後）

N=60人

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
地域に密着した 平等な医療が受 けられる (33)	地域差なく平等な医療が 受けられる (14)	・地域住民に医療を平等に提供する ・都市部の人も田舎の人も平等に医療を受けることができるためにある
	地域に密着した医療 (19)	・地域の医療の場 ・地域に根付いた医療が提供できる
対象者の健康を 維持し医療と看 護の提供をする (30)	医療・看護の提供 (12)	・地域の人たちのかかりつけ医になる ・僻地の地域に住む人々に医療や看護を提供する
	往診 (7)	・家までの往復 ・医者がいない地域や、すぐに病院に行けない高齢者の所に往診に行く
	対象者の健康管理 (11)	・地域の人の健康を守る ・早期発見、早期治療の場
他職種・他機関 との連携 (21)	他職種・他機関との連携 (21)	・他職種と協力して、患者のために全力を尽くす ・役場との連携をとる
対象者の生活背 景を知る (11)	対象者の生活背景を知る (11)	・患者の身体だけでなく生活面など全てのケアを行なう ・対象者の生活をみる
対象者との信頼 関係 (10)	信頼関係 (10)	・地域の人との信頼性 ・お互いが信頼できる
医療設備 (4)	医療設備 (4)	・思ったより設備が整っていて明るい ・入院する設備が十分ではない
	知識不足 (1)	・知らない

情報を待ち時間にとっている」「病院の看護師よりコミュニケーションがしっかりとれるイメージ」から＜情報収集＞があがった。また、「住民への健康教育」「生活指導」から＜対象者への教育・指導＞があがった。また、「カルテ管理」「薬の管理」から＜薬とカルテ管理＞があがった。

(3) 『知識不足』について

1つのサブカテゴリーが構成され、「知らない」から＜知識不足＞があがった。

3) 地域包括医療について

地域包括医療についての知識は、「知らない」が57名、「知っている」が0名、「無回答」5名であった。さらに、地域包括医療について自由記述で回答を求めた結果、ほとんどの学生が「知らない」と回答していたが、「自宅で介護される人がその人らしく安心して生活できるように色々な職種が連携・協力して支援していくこと」「地域住民の健康の把握すること」と回答した学生が各々1名いた。

2. 講義後の学生の学び

1) 診療所の機能について

講義後も講義前と同様の方法で分析した結果、診療所の機能については、110のコードから＜地域差なく平等な医療が受けられる＞＜地域に密着した医療＞＜医療・看護の提供＞＜往診＞＜対象者の健康管理＞＜他職種・他機関との連携＞＜対象者の生活背景を知る＞＜信頼関係＞＜医療設備＞の9のサブカテゴリーと『地域差なく地域に密着した平等な医療が受けられる』『住民の健康を維持し医療と看護の提供をする』『他職種・他機関との連携』『対象者の生活背景を知る』『対象者との信頼関係』『医療設備』の6つのカテゴリーに分類することができた（表2）。

(1) 『地域差なく地域に密着した平等な医療が受けられる』について

2つのサブカテゴリーが構成された。「地域住民に医療を平等に提供する」「都市部の人も田舎の人も平等に医療を受けることができるためにある」から＜地域差なく平等な医療が受けられる＞とした。「地域の医療の場」「地域に根付

いた医療が提供できる」から＜地域に密着した医療＞があがった。

(2) 『住民の健康を維持し医療と看護の提供をする』について

3つのサブカテゴリーから構成された。「地域の人たちのかかりつけ医になる」「僻地の地域に住む人々に医療や看護を提供する」から＜医療・看護の提供＞があがった。さらに、「家までの往診」「医者がいない地域やすぐに病院に行けない高齢者の所に往診に行く」から＜往診＞があがった。「地域の人の健康を守る」「早期発見、早期治療の場」から＜対象者の健康管理＞があがった。

(3) 『他機関・他職種との連携』について

1つのサブカテゴリーから構成され、「他職種と協力して、患者のために全力を尽くす」「役場との連携をとる」から＜他職種・他機関との連携＞があがった。

(4) 『対象者の生活背景を知る』について

1つのサブカテゴリーから構成され、「患者の身体だけでなく生活面など全てのケアを行う」「対象者の生活を知る」から＜対象者の生活背景を知る＞があがった。

(5) 『対象者との信頼関係』について

1つのサブカテゴリーから構成され、「地域の人との信頼性」「お互いが信頼できる」から＜対象者との信頼関係＞があがった。

(6) 『医療設備』について

1つのサブカテゴリーから構成され、「スライドでは思ったより設備が整っていて明るい」「入院する設備が十分ではない」から＜医療設備＞があがった。

2) 診療所の看護師の役割について

診療所での看護師の役割については、81のコードから＜パイプ役＞＜他職種との連携＞＜対象者との関わり＞＜対象の背景理解＞＜対象理解＞＜診療の補助＞＜療養上の世話＞＜健康教育＞＜対象者との信頼関係＞＜知識不足＞＜訪問看護＞の10のサブカテゴリーと『他職種・他機関との連携』『対象理解』『看護職の職務』『信頼関係』『診療所の機能』『知識不足』『訪問看護』の7カテゴリーに分類することができた(表4)。

(1) 『他職種・他機関との連携』について

1つのサブカテゴリーから構成され、「他職種との連携」「他職種の人とのパイプ役」から＜他職種・他機関との連携＞があがった。

(2) 『対象理解』について

3つのサブカテゴリーから構成された。「町の人たちとの関わりがある」「地域の人たちとの交流」から＜対象者との関わり＞を学んでいた。さらに、「患者さんの背景を知る」「住民や患者の地域を知る」から＜対象の背景理解＞を学び、「患者さんを把握しておくことが大切」「患者の健康に関する全体像を把握」から＜対象理＞の大切さも学んでいた。

(3) 『看護職の職務』について

3つのサブカテゴリーから構成された。「診療の補助」か

らく診療の補助>、「療養上の世話」から＜療養上の世話＞があがった。「子供から高齢者まで一緒になって医療や福祉・保健について考えられるよう指導・教育を行っていく」から＜健康教育＞があがった。

(4) 『信頼関係』について

1つのサブカテゴリーから構成され、「信頼関係のもとで医療を行う」「信頼関係を作り看護へと生かす」から＜対象者との信頼関係＞があがった。

(5) 『訪問看護』について

1つのサブカテゴリーから構成され、「訪問看護などもある」から＜訪問看護＞があがった。

(6) 『知識不足』について

1つのサブカテゴリーから構成され、「知らない」から＜知識不足＞があがった。

3) 地域包括医療について

地域包括医療について「よくわかった」が16名、「ある程度わかった」が35名、「まったくわからなかった」が1名、「無回答」が12名であった。さらに地域包括医療について興味・関心を持ったかという問いに対し「興味・関心がある」が53名、「興味・関心がない」が4名、「無回答」が7名であった。地域包括医療についてまったくわからなかったと回答した学生は、興味・関心も示していなかった。地域包括医療について自由記述を分析した結果、102のコードから、『多職種との連携とその方法』『対象理解』『地域の健康管理』『地域理解』『保健指導方法』『平等医療』『制度の活用』『知識不足』『やりがい』の9つのカテゴリーと＜多職種との連携＞＜連携方法＞＜他者への配慮＞＜対象理解＞＜地域の健康管理＞＜早期発見＞＜生きがいの提供＞＜地域の活性化＞＜保健指導方法＞＜平等医療＞＜制度の活用＞＜知識不足＞＜やりがい＞の13サブカテゴリーに分類できた(表5)。

(1) 『多職種との連携とその方法』について

3つのサブカテゴリーから構成された。「ホームヘルパー、看護師、医師などの連携が大切」「色々な職種の連携が必要不可欠」から＜多職種との連携＞を学んでいた。そして「情報交換する」「報告・相談をしっかりとる」などから＜連携方法＞があがり、学生は具体的連携方法について学ぶことが出来ていた。「他者への配慮」「様々な部分に目を向ける」から＜他者への配慮＞があがった。

(2) 『対象理解』について

1つのサブカテゴリーから構成され、「高齢者から子供まで」「子供も対象になる」から＜対象理解＞を学んでいた。

(3) 『地域の健康管理』について

2つのサブカテゴリーから構成された。「住民が健康に暮らせるように環境を整える」「地域の人々の健康を管理する」から＜地域の健康管理＞を学んでいた。そして「褥瘡の早期発見などにつなげる」「予防・早期発見につながっていく」などから＜早期発見＞があがった。

(4) 『地域理解』について

2つのサブカテゴリーから構成された。「生きがいの提

表3 看護師の役割について（講義前）

N=60人

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
医師の指示のもとでの医療補助 (44)	診療の補助 (44)	・医師の処方した薬や点滴をする ・診療の補助
看護師の専門性 (16)	情報収集 (2)	・顔見知りが多く、普段の健康状態の情報を待合時間にとっている ・病院の看護師より患者とコミュニケーションがしっかりとれるイメージ
	対象者への教育・指導 (3)	・住民への健康教育 ・生活指導
	療養上の世話 (9)	・療養上の世話
	薬とカルテ管理 (2)	・カルテの管理 ・薬の管理
知識不足 (17)	知識不足 (17)	・知らない

表4 看護師の役割について（講義後）

N=60人

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
他職種・他機関との連携 (27)	他職種との連携 (27)	・他職種との連携 ・他職種の人とのパイプ役
対象理解 (26)	対象者との関わり (7)	・町の人たちとの関わりがある ・地域の人たちとの交流
	対象の背景理解 (11)	・患者さんの背景を知る ・住民や患者の地域を知る
	対象理解 (8)	・患者さんを把握しておくことが大切 ・患者の健康に関する全体像を把握
看護職の職務 (15)	診療の補助 (11)	・診療の補助
	療養上の世話 (3)	・療養上の世話
	健康教育 (2)	・子供から高齢者まで一緒になって医療や福祉・保健について考えられるよう指導・教育を行っていく
信頼関係 (5)	対象者との信頼関係 (5)	・信頼関係のもとで医療を行う ・信頼関係を作り看護へと生かす
知識不足 (3)	知識不足 (3)	・知らない
訪問看護 (2)	訪問看護 (2)	・訪問看護などもある

表5 地域包括医療に関する学生の学び（講義後）

N=60人

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
多職種との連携とその方法 (54)	多職種との連携 (39)	・ヘルパー、看護師、医師などの連携が大切 ・色んな職種の連携が必要不可欠
	連携方法 (9)	・情報交換する ・報告・相談をしっかりとる
	他者への配慮 (6)	・他者への配慮 ・様々な部分に目を向ける
対象理解 (16)	対象理解 (16)	・高齢者から子供まで ・子供も対象になる
地域の健康管理 (10)	地域の健康管理 (10)	・住民が健康に暮らせるように環境を整える ・地域の人々の健康を管理する
	早期発見 (2)	・褥瘡の早期発見などにつなげる ・予防・早期発見につながっていく
地域理解 (9)	生きがいの提供 (6)	・生きがいの提供 ・やりがい、生きがいを見つける
	地域の活性化 (3)	・地域の活性化につながっている ・人と人とのつながり
保健指導方法 (5)	保健指導方法 (5)	・家族まとめて指導していく ・全ての人に対して行動変容を促す
平等医療 (3)	平等医療 (3)	・平等な医療の提供 ・医療の差ができてはならない
制度の活用 (2)	制度の活用 (2)	・様々な制度を活用
知識不足 (2)	知識不足 (2)	・知らない
やりがい (1)	やりがい (1)	・やりがいがある

供「やりがい、生きがいを見つける」から＜生きがいの提供＞を学んでいた。また、「地域の活性化につながっている」「人と人とのつながり」から＜地域の活性化＞があがった。

(5)『保健指導方法』について

1つのサブカテゴリーから構成され、「家族まとめて指導していく」「全ての人に対して行動変容を促す」から＜保健指導方法＞を学んでいた。

(6)『平等医療』について

1つのサブカテゴリーから構成され、「平等な医療の提供」「医療の差ができてはならない」から＜平等医療＞を学んでいた。

(7)『制度の活用』について

1つのサブカテゴリーから構成され、「様々な制度を活用」から＜制度の活用＞があがった。

(8)『知識不足』について

1つのサブカテゴリーから構成され、「知らない」から＜知識不足＞があがった。

(9)『やりがい』について

1つのサブカテゴリーから構成され、「やりがいがある」から＜やりがい＞があがった。

VII. 考察

1. 講義前後の診療所の機能についての学び

講義前の学生の知識は、『知識不足』のカテゴリーを含めても3つのカテゴリーしかあがらず、学生の知識不足が浮き彫りとなった。看護3年次生は、1年次に看護学概論で2年次には地域看護学Ⅱの講義の中で診療所の機能についてのみ講義を受けている。しかし、3年次の実習前になっても「知らない」という学生が多く、知識の定着化が図れていないことが分かる。よって、地域看護学Ⅱ講義の中で、診療所の機能だけでなく、地域包括医療、診療所の看護師の役割についても講義し、さらに地域看護学実習前に現在行っているように診療所について現場で働く看護師と医師による具体的講義を受けることで、学生の学びが定着し、実習に活かせるのではないかと考える。

また講義後では、診療所の機能についてのカテゴリー数は6カテゴリーと増えていた。このことから、実習直前の講義は有効であったと考える。そして、この講義は学生にとっては診療所の機能について再度学ぶ機会になっていることが分かった。しかし、『対象者の生活背景を知る』や『対象者との信頼関係』『医療整備』のカテゴリーについては、コード数が少ないことから、学びが浅いことが伺えた。さらに、診療所の役割である、患者の状態によっては専門病院や総合病院を紹介する役割や専門病院や総合病院との情報交換や連携を図る役割については学ぶことが出来ていないことが分かった。行政や福祉関係との連携の学びから『他機関・他職種との連携』については理解できていたが、同じ医療機関同士の連携についての学びが出来ていない。

在宅医療は患者の生活の場で提供され、病気を治すことや延命よりも、患者の生活を支え、自宅で安心して過ごせることに主眼が置かれている²⁾。また、多くの在宅療養者は介護も要しており、医療と介護が連携して一貫した医療やケアを提供することは不可欠である。そのため、行政や福祉関係との連携について学ぶことが出来ているのは評価できる。しかし、多くの学生は総合病院に就職し、将来、地域で生活している患者をかかりつけ医（診療所）から受け入れる側として支援する可能性が高い。そのためにも、患者の背景にある地域の診療所との連携についても学んでいく必要がある。そこで、診療所実習において専門病院や総合病院への紹介や連携について、実習直前に行う講義で再度教授すると共に、実習中に紹介状を見せて頂いたり、実習場で総合病院への紹介するシステムや連携システムについて再度説明をして頂き、理解を深めていくことが必要と考える。そのためには、実習施設との調整をしていく必要性が示唆された。

また、学びが浅いと思われた『対象者の生活背景を知る』や『対象者との信頼関係』については、看護師や医師が対象者と関わっている場面に同席したり、看護師や医師が対象者と関わっている場面を学生自身が意図的に見ていくことで、看護師のコミュニケーションの取り方や対応の仕方を実際に知り、『対象者の生活背景を知る』必要性を実感したり、『対象者との信頼関係』についての理解を深めたりすることが出来るのではないかと考える。さらに、『医療整備』については、学生自身が診療所に受診した経験がある者32名、ない者が28名であり、受診経験者が医療整備に関しては、知識を持っていることが分かった。学生自身の体験が知識として身に付けていることが伺える。また、『医療整備』について、現場で実際の設備や機能について見ながら説明を受けたり、検査や処置など実際に施行されている場を見学することで、病院と診療所の医療環境の違いが体験でき、学びの定着につながるのではないかと考える。

2. 講義前後の看護師の役割についての学び

講義前のカテゴリーは、3カテゴリーであったが、講義後は『他職種との連携』『信頼関係』『対象者理解』などのカテゴリーが増え7カテゴリーとなっていた。このことより、実習直前の講義から学生は看護師の役割を再度学ぶ機会になっていることが分かった。しかし、実習前に行う講義の目的は十分達成したとは言えない部分があると言える。

それは、講義前の学生が捉えている看護師の役割は、＜診療の補助＞が44件と最も多い。しかし、コードをみると「診療の補助」と記述されているものばかりであり具体性に欠けている。また、『看護師の専門性』のカテゴリーには、＜療養上の世話＞のサブカテゴリーもあげられた。しかし、このサブカテゴリーのコードも「療養上の世話」と記述されているものばかりで、具体性に欠けていた。これは、講義後のサブカテゴリーも同様で、一部＜健康教育＞があがっているが、＜診療の補助＞＜療養上の世話＞とあがって

いても各コードをみると「診療の補助」「療養上の世話」と記述されているだけで、具体性に欠けていた。このことより、学生は診療所で働く看護師の役割についてあまり理解しておらず、保健師助産師看護師法で記されている看護職の職務をただ記述したのではないかと、また、診療所の看護師のイメージとして医師の指示により注射などを実施しているのを持っているのではないかと推察する。

山間地域の診療所は、一次医療機関として診療科目が多岐にわたり様々な症状を持った患者さんや幅広い年齢層の方が受診をする。そのため、診療所の看護師の役割として「診療の補助」の中には、診療科目に関係した検査・処置³⁾がある。この診療科目に関係した検査・処置の内容は多岐にわたっており、看護師はその内容を患者に合わせて実施していかなければならない。また、医師の処方に基づく調剤、薬剤の補充管理⁴⁾など多くの業務も担っている。さらに、入院中の患者への関わりと違い受診者への配慮と同時に“診療の流れ”⁵⁾にも配慮しスムーズに診察が出来るようにもしていかなければならない役割も担っている。学生の学びの具体性に欠けていた「診療の補助」にも様々な内容があり、その内容を実習中に実際に看護師が行っている場を見学したり、学生が出来る範囲内で診療の補助を体験することにより具体性を持った学びに結び付けていく必要があると考える。

学生は講義後『信頼関係』『他職種との連携』について学ぶことはできていたが、『信頼関係』についてはカテゴリー数としては少なかった。看護を行う上では施設内(病院)・施設外(診療所や施設など)に関わらず患者様との信頼関係は必須である。特に過疎地域で一次医療として患者や家族と関わっている看護師は、長年患者と家族に関わってきたからこそ過疎地域ならではの信頼関係がある⁶⁾。その信頼関係を実習中に、看護師と患者との関わりを通して理解したり、患者との会話から思いを知ることで理解して欲しい。

さらに、看護師の役割でも『他職種との連携』については具体性に欠けていた。今後の講義の中でも具体的に教授していく必要があると共に、実習中にどのような連携の場があり、看護師としてどのような方法で誰と連携をとっているのかなどケースカンファレンスへの参加や資料などを見せてもらうことにより、具体性のある学びにつなげていく必要性が考えられた。『他職種との連携』の必要性を具体的に学んでいくことで、『地域包括医療やケア』についても理解が出来るのではないかと考える。これからの看護師に求められていることは、退院支援・退院調整など患者

の在宅生活を視野に入れた看護の提供ができるようになるのである。『他職種との連携』の必要性や『地域包括医療やケア』について理解を深めることで、対象者の生活背景を理解することはもちろん、看護師としてどの職種や機関と連携すれば、患者の退院後の在宅生活がより安心して過ごすことが出来るようになるかを考慮した看護が提供できるようになるのではないかと考える。

3. 診療所実習への課題

診療所実習は、通院患者また在宅療養者への診療を通して、診療所の機能・役割を理解し、地域住民への保健・医療・福祉活動のあり方を理解することを目的としている。実習前の講義では、診療所の機能や役割、看護師の役割について知識はあるものの具体性に欠けた漠然としたものであることが明らかとなった。臨地実習では、経験に意味付けをして、学生が経験の意味を探究できるような学習援助が必要⁷⁾とされている。そのためには、実習指導者と連携し、学生の知識と実践が結びつくような関わりをしていきたいと考える。特に、学生の漠然としていた知識に対してや地域包括医療についての理解とその役割については、これからの看護に必要な視点であるので強化していきたい。

引用文献

- 1) 山田雅子：看護基礎教育の新カリキュラムにおける在宅看護論の位置づけと今後の方向性，看護教育，13 (1)，12-16，2008.
- 2) 松木良真：複数医師による在宅医療の実践 3年間で見てきたもの，訪問看護と介護，13 (12)，1018-1023，2008.
- 3) 安田貴恵子・御子柴裕子・小林理恵子他：山間地域の診療所における看護師の役割 ― 診療所の外来受診者と看護師に対する調査から ―，長野県看護大学紀要，10，98，2008.
- 4) 前掲書 3) 97.
- 5) 前掲書 3) 97.
- 6) 普照早苗・田内香織・藤沢まこと他：病院から診療所へ体制以降する過疎地域医療機関における看護援助のあり方，岐阜県立看護大学紀要，9 (1)，50，2008.
- 7) 小川佳代・三浦浩美・船越和代：小児看護学実習における学生の看護技術体験による学び，香川県立保健医療大学紀要，3，71-77，2006.

**Students' learning effectiveness in pre-training classes and their future challenges
— The effects of pre-training classes —**

Kazumi KURIMOTO, Kazue YAGI

Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

There has been a significant change in the environment surrounding community health care since the reform of the health care system in Japan, such as the shift from hospital to home-based care. In this context, clinics have served as a familiar and important basis for community residents linking their living environments and health care services.

In response to this trend, Junior College A has provided training in clinics as an integral part of learning community nursing. Prior to such training sessions, classes designed to teach basic knowledge on health care services implemented in clinics are held by clinicians in the college.

The purpose of this study was to examine the effects of these classes on students, and review the teaching methods in the training program implemented at clinics. The results demonstrated that the classes helped students learn the roles of clinics and nurses working there as well as comprehensive community medicine. It is necessary to review the Community Nursing II course to help students relate what they have learned to the pre-training classes and enhance learning effectiveness, as well as improve consistency between the pre-training classes and training sessions, which hopefully will lead to their better learning practice in training at clinics.

Key words: Clinic, Nurse's role, Region inclusive medical treatment, Before and after the lecture, Student nurse's learning